

FUJIEDA ROTARY CLUB
Weekly Bulletin

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 E-mail club1972@fujieda-rotary.org



長野・松本城
 写真提供：鈴木舜光君

会長：村松英昭 副会長：小宮弘一郎
 幹事：後藤 功 副幹事：青島 彰

第1681回

<ソング>われら日本のロータリアン
 <ソングリーダー> 望月晃君



2006-2007年度
 RIテーマ

率先しよう

ウィリアムB. ボイド

会長報告

村松 英昭君

先日の27日の日曜日に清水テルサにてロータリー財団セミナーが開催されました。柳原財団委員長と私の二人で出席しました。13:30~16:00まで休憩10分をはさんで勉強しました。一人当たり100ドルの財団寄付をぜひお願いしますとガバナーが申ししていました。詳しくは、柳原財団委員長より発表がありますのでお聞きください。

本日は、青少年交換学生帰国報告として、竹越翔子さんにおいでいただいています。ブラジルでの一年間の苦労話、楽しかった事、心に残るできごと等いろいろな話が聞ける事と思います。楽しみにしています。よろしくお願い致します。

青少年交換事業も当クラブにおいて4回となります。最初は創立数年目の時、聖光学院の平木君とオーストラリアのピーター君、2回目が英和女学院の伊藤さんとカナダのモニカさん、3回目が藤枝東高校の西野さんとブラジルのレテイシアさん、そして今回の竹越さんとカウエ君です。ピーター君は日本語がべらべらになって帰国し、その後何回か日本に訪れています。モニカさんは、インド系のカナダ人で色は黒く目がくりくりとした子でした。お正月に和服を着せたら大変喜んで、このまま脱がないでずーっと着ていると言って困らせました。また、送別会では、衣装を着てインド舞踊を踊ってくれました。レテイシアさんは、高校で茶道部に属し、文化祭ではゆかたを着てお茶をたててくれました。ブラジルへの帰国時には

高校の友達二人を連れて帰りました。

今回のカウエ君は、カラオケに行く事とインターネットだけに興味があり、他の事には興味を示しませんでした。日本語もほんの少し話せるようになったただけでした。そのため高校のクラスメイトと意思の疎通がはかれず友達ができなかった。せっかくの機会なのに残念でした。青少年交換事業の目的は、他の国の文化、習慣を知ると共に、自国の文化、習慣を紹介しお互いの国を理解し、ひいては世界の平和に寄与する事です。

幹事報告

後藤 功君

- 氏原地区幹事より2006~07年度広報補助金についてのご案内が届いております。
- 白山ロータリークラブより2006~07年度のクラブ要覧が届いております。
- 9月号『ロータリアン』英語版が届いております。

出席報告

青島 彰君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
26 / 41 63.41%	30 / 41 73.17%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 北村君 ○仲田廣君 ○成瀬君 ○水野君
- 宮川君 ○村松宏君 ○池ノ谷君 浅川君
- 飯塚君 板倉君 桜井富君 鈴木晶君 鈴木舜君
- 仲田晃君 望月志君

(2)メイクアップ者

- 岩田 規君(藤枝南) 村松 宏一君(藤枝南)

水野 義猛君（焼津南） 北村 幸男君（焼津南）
村松 宏一君（焼津南）

ロータリー財団委員会

委員長 柳原 寿男君

8月27日、第2620地区「2006-07年度ロータリー財団セミナー」が清水テルサで開催され、村松会長と私が出席しました。このセミナーは毎年開催され、ロータリー財団及び財団プログラムを理解するための勉強会であります。

井上ガバナーの挨拶、ロータリー財団委員長渡辺脩助パストガバナーの「R財団と財団プログラム」の骨子についての話のあと、各々の小委員会（奨学金、補助金、研究グループ交換、財団学友、年次寄付・恒久基金）委員長より各々の事業の説明がありました。詳細については、今後折りに触れ提供して参ります。

財団への寄付と財団プログラムは車の両輪に喩えられます。本年度の寄付金は会員一人100ドル（従来は120ドル）ですが、ちなみに2004-05年度寄付実績の概算は、当地区で7000万円、日本全体で約20億円、全世界で120億円となっています。一方、教育的プログラムである国際親善奨学金は年間、世界全体で約1000人、日本国内で約240人、当地区で7名支給されています。又、同じ教育的プログラムのGSE（研究グループ交換）は、往復の旅費がロータリー財団から支給され、研究、滞在費は受け入れ地区の負担となっています。本年度はブラジル（サンパウロ）から10～11月頃、男性1名、女性4名が来日する予定です。受け入れ先は静岡第1分区とのことで、各々の分区の会員宅にホームステイされます。

青少年交換学生 帰国報告

竹越 翔子さん



無事にブラジルから帰ってきました。この一年、一言で表すなら大変な一年でした。

日本から伯刺西爾までのフライトは短くても一日かかります。一人で国際線に乗るのは初めてということもあり、不安でした。しかし、日本人観光客の方が多くいたことや、簡単な乗換えだったので難なくサンパウロへ到着しました。ファーストペアレンツが出迎えてくれました。もうここからは日本語は一切使えません。運良く英語を話せるファミリーだったので助かりました。

朝8時に到着したので、ファミリーがサンパウロを案内してくれました。会話は全て英語です。ファーストファミリーとはメールのやり取りをしていました。だから私が創価学会という仏教徒ということを知っていました。驚いたことに、その日のうちにブラジル創価学会の拠点へ連れて行ってくれました。私は頼んだこともなく、彼等はカトリック教徒。私のために探してくれたのです。よく日本で“外国人とは宗教について話してはいけない。”と聞きました。しかしそれは間違っていると思います。ブラジルだけでなくほかの国の方も他宗教に興味をもっているのです。勿論中傷してはいけません。しかし、“知る”ということに関しては、彼等は積極的です。むしろ日本人こそ宗教について話すことに抵抗を感じているのではと思います。

次の日には私がこれから一年暮らしていく、サンカルロスという田舎の街へ行きました。その日は私のサードファミリーの家で歓迎パーティーでした。ホストファミリーとホストロータリーの方々が来ていました。お祝いに誕生日の歌を歌ってくれたり、ケーキを用意してくれていました。余りの歓迎に驚き緊張しましたが、こんなにも出迎えてくれるんだと知り安心しました。

ファーストファミリーは一番頼りになる家族でした。ホストファーザーは日本に興味があり、炊飯器や御椀、箸など持っているほどです。ホストマザーはポルトガル語の単語を紙に書き、家中の家具に貼ってくれました。二人とも仕事で忙しい

のに何かあればいつも聞いてくれました。

セカンドファミリーは同い年のホストシスターとお兄さん、お姉さんがいました。私は末っ子ということもあり、居心地良かったです。同い年のシスターは出かけるときよく誘ってくれました。お兄さんとも一緒に出かけたり、何かあればいつでも言ってねと気に掛けてくれました。

サードファミリーは自分専用の部屋とバスルームがあり、広くて綺麗な家でした。ホストマザーがとても素晴らしい方でした。仕事が忙しいらしく、疲れているはずなのに、私が暇な時はどこかへ連れて行ってくれました。彼女の職場や商店街。もう直ぐ日本へ帰るからと、わざわざ遠い街のショッピングモールまで車を運転して一緒にお土産を選んでくれました。お陰で帰りの荷物はものすごいことに…。私は家で過ごすことを好む方でしたが、サードマザーの影響で今では外へ出かけることが好きになりました。

ロータリーの集会ではロータリアンの方がよく声をかけてくれました。ある一人のロータリアンの方が、街の介護施設でプロジェクトをしているから手伝って欲しいと言ってきました。その施設は五百人もの精神障害、身体障害の子供たちがいます。とても狭いところでした。だから今、日本から寄付金を頂く為に、まずこの施設がどういうところか、どんな状況かをしってもらいたいため、ビデオを作ろうとしていました。そこで、日本からの留学生である私に話がきたのです。親善大使としてこれほどの機会はないと思い、このプロジェクトに参加することにしました。私が日本語でキャスターをしました。久しぶりの日本語で大変でしたが何とかできました。

ブラジルと聞くと危険な国と思う方が多いです。私も以前そうでした。しかし、どこの国も危険な所はあります。自分自身がしっかり判断して、場所や人を選べば危険な目に遭う事はないでしょう。ブラジルの人々は暖かい人が多いです。知らない人でも気軽に声をかけるほど。困ったときには親切に助けてくれます。時には相手から頼まれても

いないのに、助けてくれます。選ぶ人を間違えれば危険ですが、私は運良く危ない目に遭ったことはありません。気をつけていれば何の問題もありません。



海外での生活を経験するとその国の文化を知り、外からの日本を知ることができます。そして、もう一つ。私は日本の自分の家族の有難さを実感しました。全てにおいて協力してくれた両親に心から感謝したいと思っています。視野を広めることや、普段何気ない生活の有難さを知るためには、派遣プログラムはとても良いと思います。

支えてくださったロータリークラブの皆様、こんな素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました。これからも、この派遣プログラムを発展させて 欲しいと思います。ではこれからも宜しくお願いします。

(担当 / 増田)